

## 令和3年度全国学力・学習状況調査における熊谷市の結果の概要について

### 【教科調査の概要「全般」】

- 小中学校全ての教科において、全国平均より正答率が高い結果となりました。特に小学校算数については、平均正答率が全国1位の石川県と東京都と並ぶ好結果となっています。個々の問題を見ていくと、小学校国語では「言葉の特徴や使い方に関すること」、小学校算数では「データの活用」、中学校国語では「読むこと」、中学校数学では「資料の活用」等に課題が見られたため、指導の工夫・改善を図る必要があります。
- 全ての問題について、無解答率が全国平均よりも低い結果となりました。特に、記述式の問題について、無解答率が低く、全国と比較し、自分の考えや答えを導くまでの過程を書けていることが分かりました。

### 【教科調査の概要「国語」】

- 小学校では、「目的や意図に応じて、資料を使って話す内容について適切なものを選択すること」、「文の中で、送りがな、同音異義語に注意して、正しい漢字を書くこと」がよくできていました。一方、「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けること」、「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること」については、課題が見られました。
- 中学校では、話合いに関する事項「話合いの話題や方向を捉える」や「質問の意図を捉えること」、「文脈に即して漢字を正しく読むこと」は特によくできていました。また、「文章構成の工夫について考えること」や、「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くこと」がよくできていました。一方で、「意見文の下書きを直した意図について考えること」、「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつこと」などについては、課題が見られました。

### 【教科調査の概要「算数・数学」】

- 小学校では、「棒グラフから、数量や項目間の関係を読み取ることができること」、「条件に合う時刻を求めることができること」、「道のりと時間の関係について考察したり、速さと道のりを基に、時間を求める式に表したりすること」がよくできていました。一方、「図形を構成する要素などに着目し、面積の求め方と答えを記述できること」や「帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できること」などについては、課題が見られました。
- 中学校では、「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること」や「数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明すること」、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること」、「平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になること理由を説明すること」といった記述式の「説明する問題」が全国と比較し、すべてよくできていました。また、「数学的な見方・考え方」というまさに汎用的な能力を問う問題についても全国と比較し、よくできていました。汎用的な能力の育成を目指す「くまがやラグビー・オリパラプロジェクト」の成果が表れています。しかし、「ヒストグラムからある階級の度数を読み取ること」や「相対度数の必要性和意味の理解」、「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること」といった「資料の活用」領域については、全国の平均正答率より0.2ポイントから0.6ポイント低く、課題が見られました。